

神崎市 ため池ハザードマップ 耕地ため池

【保存版】



耕地ため池全景



耕地ため池下流域

平成30年3月作成



ため池ハザードマップに関するお問い合わせは

神崎市役所 農政水産課 TEL: 0952-37-0106

ため池
決壊想定
イメージ

1 大規模地震により堤防が破損、大雨で増水

・・・亀裂や堤防前面の滑落など

2 大雨等でため池の水位低下が困難

・・・亀裂や堤防前面の滑落箇所からの漏水など

決壊地点直下の地域の建物や車は押し流される可能性があります。

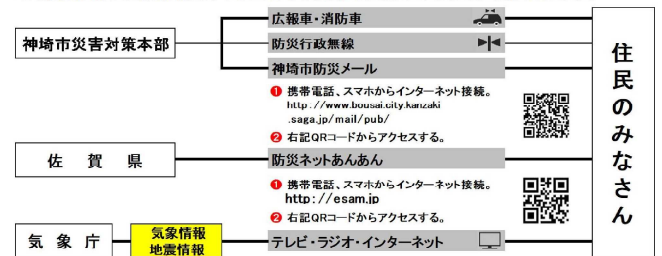
高台に避難してください！

市からの避難情報に注意しよう！

● 避難情報には、緊急度に応じて3つの種類があります。

避難情報の種類	発表の目安
避難準備・高齢者等避難開始	人的被害の発生する可能性がある場合に発表します。特に避難行動に時間を要する方は、避難を開始してください。
避難勧告	人的被害の発生する可能性が明らかに高くなった場合に発表します。避難してください。
避難指示(緊急)	人的被害の発生する可能性が非常に高く、大変危険な場合に発表します。ただちに避難してください。

● 気象情報や避難情報は、下図のような経路で住民のみなさんに伝達されます。



※「防災ネットあんあん」とは、佐賀県では、県民の皆さんの安全・安心を確保する一助として、携帯電話等のメール機能を使った情報配信システム「防災ネットあんあん」を運用しています。是非ご登録ください。

避難勧告等がだされたら速やかに避難しよう

避難行動の心得

想定される浸水の深さを確認しましょう

3m以上の浸水
● 2階以上に浸水
● 水流が強い場合は、木造住宅が倒壊する危険がある

0.5m～3mまでの浸水
● 2階までが浸水
● 水流が強い場合は、木造住宅が倒壊する危険がある

0.5m未満の浸水
● 床下浸水
● 大人のヒザ程度
● 浸水の深さがヒザ上になると、歩行は危険

浸水しない場所
● 安全な場所へ移動する
● 水平避難

2階以上の建物
● 近くの丈夫な建物の2階以上に避難し、水が引くまでとどまる
● 垂直避難

自宅にとどまる
● むやみな移動はかえって危険
● 屋内待機

～早期避難のススメ～

避難は、可能な限り浸水被害が発生する前に行ってください。ため池の決壊後の避難は危険ですので、注意してください

● 動きやすい服装で。

● 荷物は最小限。

● 足元注意。



● 避難するときは、近所の人達と声を掛け合い一緒に避難しましょう。

● できるだけ明るいうちに避難しましょう。

地震のあと

被災状況(防災無線の故障、広報車の通行不可、停電等)により、通常の手段を通じた情報の入手が困難になります。そのことを前提と考え、憶測やデマに惑わされず、冷静に事態に対応しましょう。



災害発生時の避難情報入手における注意点

大雨のとき

大雨時は家屋内にいる場合が多く、防災無線・広報車の呼びかけが雨の音で聞こえにくい場合があります。テレビやラジオ、インターネットなどから、自主的な情報収集を心がけましょう。

地域防災力の向上に向けて

災害(大雨、洪水、地震)は必ず発生します。もしかすると、明日発生するかもしれません。将来予想される大規模な災害に対応するためには、自助・共助・公助の取り組みとともに、地域の防災力を向上させていくことが重要です。

「災害を知る」「まちを知る」「人を知る」

■ 災害をイメージして、日常から自分で対策を考えることが大切です。

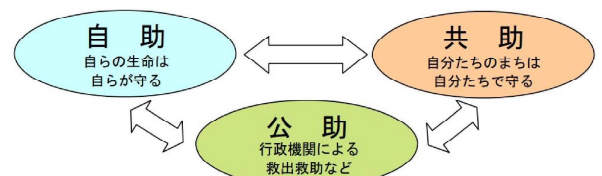
1. **災害を知る**
「どれくらいの規模で、どのような災害の発生が予想されるのか」
2. **まちを知る**
「災害時に安全な場所、危険な場所はどこにあるのか」
「何かあった場合にお世話になる場所や施設はどこにあるのか」
3. **人を知る**
「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか」
「近所に手助けが必要な人はいるのか」



「自助」「共助」「公助」

■ 災害の被害を軽減するためには、「自助・共助・公助」連携が不可欠です。

1. **自助**
「自らの安全は、自らが守る」これが、防災の基本です。
2. **共助**
近所の人たちと協力して、お互いに助け合うこと。
3. **公助**
役場・警察・消防といった行政機関が取り組むこと。



それぞれが、災害対応力を高め、連携することが重要

地域防災力を高めることが、災害に強い地域を作る事に
つながり、一人でも多くの命を救うことにつながります。

【保存版】
ハザードマップ
耕地ため池

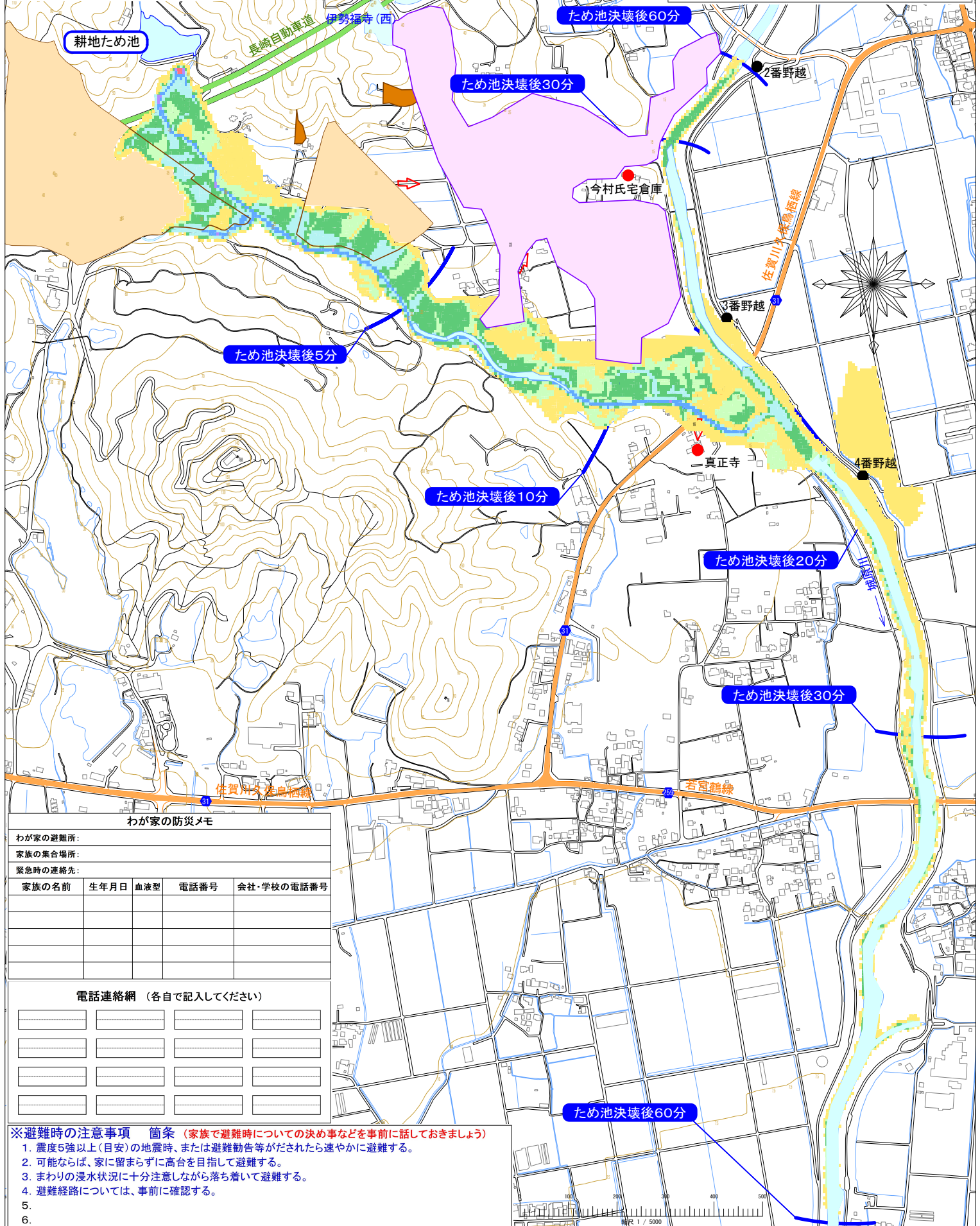
このマップは、ため池が決壊した場合にどのような被害となるか知るために、ため池すべての貯水量が流出する状況を想定しています。
このマップは、浸水の深さを色で示しています。
表示されている範囲外でも、被害が発生する可能性がありますので、注意が必要です。

浸水の深さ
(耕地ため池浸水範囲)

5.0m以上	屋根まで浸水
3.0m～5.0m	2階以上が浸水
2.0m～3.0m	1階以上が浸水
1.0m～2.0m	大人の頭まで
0.5m～1.0m	大人の腰まで
0.2m～0.5m	子供の腰まで
0.2m未満	床下浸水

凡 例

- 浸水範囲(伊勢福寺ため池)
- 避難場所
- 避難方向
- 決壊後到達予想時間
- 野越(城原川)
- 土砂災害警戒区域(土石流)
- 土砂災害警戒区域(崖崩れ)



わが家の防災メモ

わが家の避難所:
家族の集合場所:
緊急時の連絡先:

家族の名前	生年月日	血液型	電話番号	会社・学校の電話番号

電話連絡網 (各自で記入してください)

- ※避難時の注意事項 簡条 (家族で避難時についての決り事などを事前に話しておきましょう)
- 震度5強以上(目安)の地震時、または避難勧告等がだされたら速やかに避難する。
 - 可能ならば、家に留まらずに高台を目指して避難する。
 - まわりの浸水状況に十分注意しながら落ち着いて避難する。
 - 避難経路については、事前に確認する。
 -
 -